

今回紹介する「盛岡デー」は、2006年に発表された「盛岡ブランド」をPRするためのキャンペーンとして始まった。これまで、観光キャンペーンやイベントは、それぞれの特産品ごとに行われていたが、それらを集中的に実施することでPR効果を高めることが狙いだ。

この「盛岡デー」というネーミング、なかなか興味深い響きである。地方自治体による「観光物産展」はよく開催されているが、「○○デー」とはあまり聞いたことがない。ネーミングの由来について、立ち上げメンバーの一人、中央公民館の坂田館長に伺ったところ、「盛岡には、魅力的な地場産品が沢山あるが、それに勝るとも劣らない文化や芸能も併せ持っている。物販だけでなく物産展だが、文化や芸能も併せて知ってもらいたいので、まるごと盛岡の日という意味合いで、『盛岡デー』と名付けた」という。

スタートは東京から。特産品ブランド認証品の冷麺や南部煎餅、南部鉄瓶などの販売の他、伝統文化の紹介として「さんさ踊り」の実演や、畑中美耶子さんによる石川啄木の妻・節子の一人芝居が上演され、盛況を博した。

その後、2007年は東京・京都、2008



もりおがブランド物語

盛岡デー

年は東京・伊丹、2009年は東京・広島・沖縄と開催地は広がり、実施内容も、盛岡山車やチャグチャグ馬コ装束の展示や、作家新井満さんによる石川啄木講演会など、さらに充実していった。

順調に広がりをみせる「盛岡デー」であったが、坂田館長はイベントを通し、土地よっての認知度の違いも感じたという。「西日本では、盛岡にゆかりのある人物として宮沢賢治、石川啄木は知っているが、原敬、新渡戸稲造については知らないことも。認知度はまだまだだ。しかし、『盛岡デー』は、参加した方々だけではなく、イベントが新聞に掲載されたり、テレビニュースで放送されたりすることで、想像以上の波及効果をもたらしてくれた。今後はさらに浸透していくはず」。

今年も、東京、関西圏、沖縄で開催予定。盛岡市民よりも県外の人たちが盛岡に詳しいなんてことにならないように、私たちも身近にある特産品、文化、芸能に対し、もっとアンテナを張っていかなければ！

## 盛岡特産品ブランド認証委員会

〒020-0055 岩手県盛岡市繫字尾入野 64-102  
代表電話 019-689-2201 ファックス 019-689-2212